

発掘された鈴鹿 2021

ふじやま
富士山1号墳 (第1次) 国分町
7月1日～継続中 学術調査 82.42㎡



葺石 (西から)



造出の北西部 (南東から)



円筒埴輪



古墳現況図合成写真

令和2年度に作成した現況図から、全長54mで前方部が短い帆立貝式の前方後円墳であることが分かっています。令和3年度から学術目的の発掘調査に着手しました。調査は古墳西半を対象とし、後円部・くびれ部・前方部端にトレンチ(調査溝)を掘りました。結果、墳丘は2段に築かれ、斜面には石が敷かれていたことが分かりました。周囲には馬蹄形に溝が掘られ、さらにその外周には堤が巡らされていた可能性があります。出土した円筒埴輪の特徴から、5世紀後半頃に造られた古墳と考えられます。また、くびれ部付近には造出という祭祀用のステージが取り付けられていることが確認され、格式の高い古墳であることが分かりました。このような場所に造出を持つ帆立貝式古墳は全国的に見ても例が限られています。



イメージ図

みなみはらなが
南原永I遺跡 南若松町

3月25日 集合住宅建設に伴う範囲確認調査 8㎡

現地表面から60cmほど掘り下げたところで、弥生土器・土師器・須恵器・瓦・カマド・軽石・土錘などが比較的良い状態で出土しました。約4～5㎡と狭い範囲の掘削にもかかわらず、コンテナボックス1箱分の量に迫ります。いずれも砂層の落ち込みからの出土で明確な遺構が確認できたわけではありませんが、焼け歪んだ須恵器の出土から考えるに、近くの窯の生産品を選別・出荷する場所だったのかもしれません。周辺では港の管理施設かと推定される天王遺跡などが確認されており、その関連性も気になるところです。



出土遺物

ひがししょうない
東庄内B遺跡 東庄内町

4月9日・12日 太陽光パネル設置に伴う範囲確認調査 132㎡

東庄内A遺跡とともに、市内最古の縄文時代早期の遺物が出土したことで知られる遺跡です。

今回の調査では、竪穴建物や土坑、溝が確認されました。竪穴建物からは状態の良い弥生土器(壺・甕)が出土しました。土坑からは焼土や骨片、鉄釘が出土しました。周辺で行われた発掘調査の成果からみて、中世の火葬墓である可能性が考えられます。



錆びた釘?

火葬墓 検出状況 (南西から)



弥生土器 甕 出土状況 (南西から)

会期中の行事

■スライド説明会

- ところ 考古博物館 講堂
①4月17日(日) 13:30～
磐城山遺跡・沢城跡
②5月22日(日) 13:30～
富士山1号墳・平野遺跡

■現地見学会「遺跡の歩きかた」

- ところ 史跡 伊勢国分寺跡歴史公園
とき 5月28日(土) 13:30～

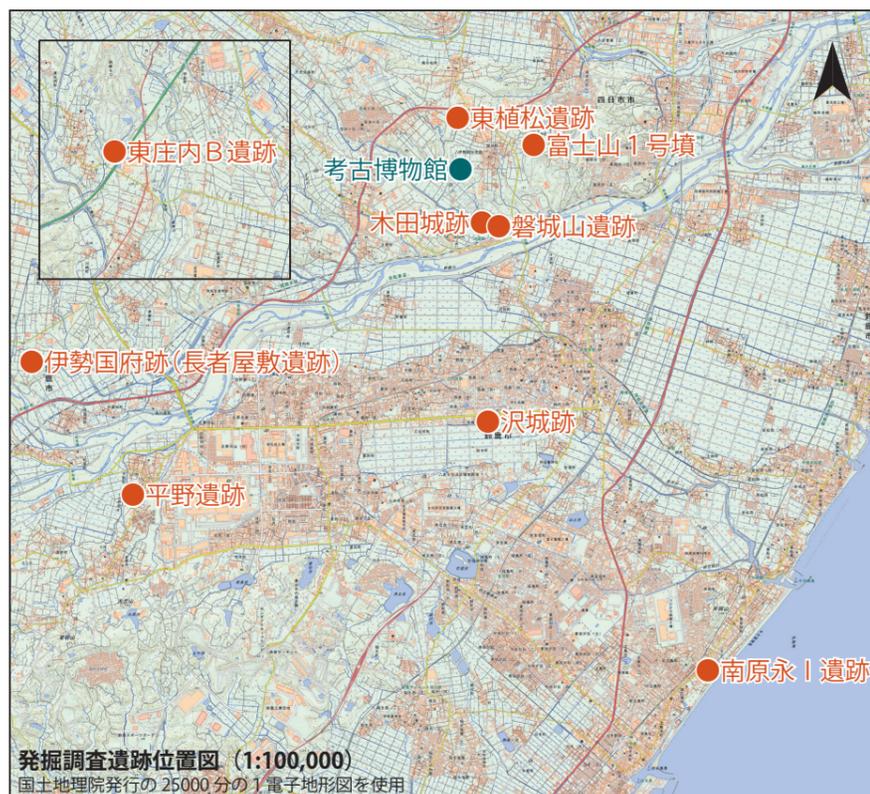
■博物館入門講座

- ところ 考古博物館 講堂
①6月19日(日) 13:30～
「土器をみる-古代編-」
講師：水橋公恵氏
(三重県埋蔵文化財センター)

いずれも事前申込制・参加無料
詳細は博物館HP等でご確認ください

鈴鹿市考古博物館

〒513-0013 鈴鹿市国分町224番地
TEL 059-374-1994 FAX 059-374-0986
E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp



発掘調査遺跡位置図 (1:100,000)

国土地理院発行の25000分の1電子地形図を使用

ひがしうまつ
東植松遺跡 (第1次) 国分町

1月7日～25日 道路舗装修繕に伴う緊急調査 48㎡

同遺跡では初となる本調査です。土坑と柵が確認でき、土坑からは平瓦と須恵器が出土しました。柵は掘立柱建物の一辺である可能性も考えられますが、調査区が狭いため全様は確認できていません。

古代瓦が出土遺物全体の大半を占めていることや、伊勢国分寺跡に程近い場所であることから、国分寺と同時期(奈良～平安時代)に営まれた遺跡であることがわかってきました。



土坑からの出土遺物 (南から)

ひらの
平野遺跡 (第6次) 平野町

6月7日～24日 個人住宅建設に伴う緊急調査 122.4㎡

掘立柱建物3棟と土坑を検出しました。掘立柱建物のうち2棟は重複する建物(=同一箇所建て替えられた)です。柱穴は方形で、時代は平安に遡るかもしれません。もう1棟は丸く小さい柱穴による総柱建物で、鎌倉時代のものと思われます。土坑からは山茶碗・陶磁器・銅銭などが出土しました。常滑焼の二筋もしくは三筋壺や、舶載品である青白磁の合子など、一般的な集落では見ない遺物も出土し、一帯には鎌倉時代から室町時代にかけてかなりの有力者が居住していたとみられます。



完掘状況 (東から)

さわじょう
沢城跡 (第5次) 飯野寺家町

7月19日～10月15日 宅地造成に伴う緊急調査 95㎡

沢城は、神戸城(県史跡)築城以前に神戸氏が根城としていた平城です。調査の結果、時代の異なる層がいくつも重なり合うことが分かりました。大きく4層(①沢城築城以前の水田の層、②沢城時代(室町時代)の層、③江戸時代の整地層、④明治時代の道路面)に分かれ、②では城の入り口と見られる階段状の遺構を確認しました。また③からは古銭(寛永通宝)16枚がまとまって出土しており、地鎮のために埋納されたものと思われます。



階段状遺構(北東から)



寛永通宝

いせこくふ ちょうじややしき
伊勢国府跡 (長者屋敷遺跡 第41次) 広瀬町

11月15日～2月14日 学術調査 136.97㎡

令和2年度に引き続き、伊勢国府政庁の北に広がる北方官衙の碁盤目状の区画の内部に調査区を設定し、建物の配置や役割を確認しようと考えました。残念ながら遺構のほとんどは近現代の攪乱によって失われており、検出されたのは溝2条のみでしたが、出土遺物には聖武天皇ゆかりの重圈文(いくつかの円が重なった文様)をあしらった軒丸瓦や、文字が刻まれたスタンプが押された瓦などが含まれていました。おそらく、瓦葺きの格式高い建物が立ち並び、伊勢国の政治の中核として日々多くの人々が政務に励んでいたのでしょう。



溝(南から)



重圈文軒丸瓦

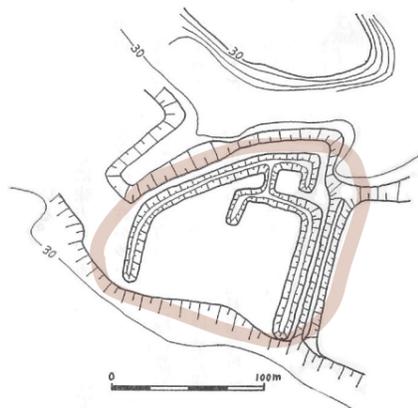
押印平瓦

きだじょう
木田城跡 木田町

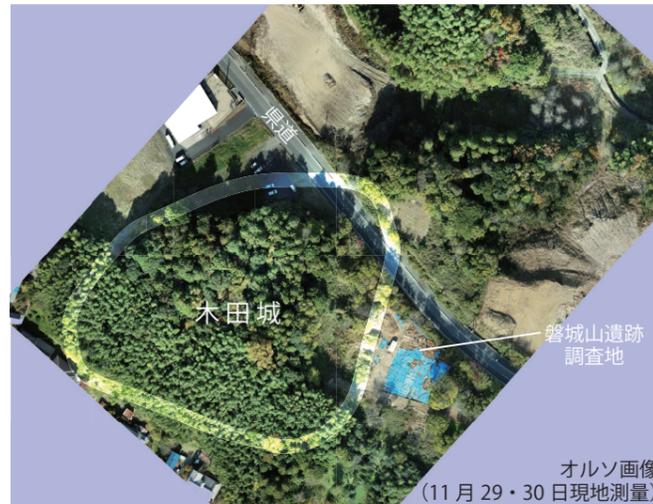
11月29日～2月28日 現況図作成

磐城山遺跡の西側に隣接する山城です。城主は、高岡城主として織田信長軍の侵攻にも耐えた名将・山路弾正の一族と伝えられていますが、真偽を含め詳細は分かっていません。

現地には、城の土塁や堀などの起伏が良い状態で残存しています。これまで雑木が視界の妨げとなってきましたが、今回レーザー測量を実施することで、目視できない部分も含めた城の全様を図化することができました。周辺の地形改変が著しいため、現時点の地形を記録しておくことは、文化財保護において非常に重要な作業となります。



昭和40年代の測量図
(『鈴鹿市史』第1巻より抜粋)
※新しく測量したものは速報展にて公開



オルソ画像
(11月29・30日現地測量)

ばんじょうざん
磐城山遺跡 (第14-2次・第15次) 木田町

6月1日～25日・11月8日～継続中 農地改良に伴う緊急調査 約100㎡・約140㎡



2010年(第3次調査)に始まり、現在に至るまで継続中の調査です。今回の調査(第14-2次・第15次)では、竪穴建物や溝のほか、おびただしい数のピット(小穴)を確認しました。

弥生時代の竪穴建物は多くが重なって確認され、何度も繰り返し建て替えられていたことが分かります。磐城山遺跡は、弥生時代後期頃にはニュータウンのような状況だったようです。

第14-2次調査完掘 ※網掛けなしの箇所(上空から)